



米國自動車交通 と其工業

合衆國「ミシガン」洲道路局の發表せる千九百十三年以來の州内幹線道路の交通調査によれば自動車馬車の衰盛左表の如くにして同州幹線道路には馬車は次第に其の跡を

年	觀測箇所數	馬車數 (百分率)	乗用自動車 (百分率)	貨物自動車 (百分率)
1913	77	33.98	62.35	3.61
1914	21	33.80	63.98	2.22
1915	25	20.83	77.23	1.91
1916	265	27.33	68.33	4.24
1917	795	21.18	75.44	3.38
1918	781	16.14	74.93	8.93
1919	887	14.19	76.24	9.57
1920	1,860	7.52	83.50	8.68
1921	2,384	4.59	86.61	8.75

三月迄に製作せる臺數を示すものにして米國「ナショナル、オートモビル、チャンパー、オープン、コンマシー」の發表にかゝるものなり

自動車生産臺數

月	乗用自動車		貨物自動車	
	1922年	1921年	1922年	1921年
7	224,770	165,574	21,837	10,766
8	248,122	167,705	24,467	13,080
9	187,661	144,659	19,188	13,648
10	216,099	134,734	21,512	12,813
11	215,284	106,422	21,683	10,010
12	207,269	70,690	20,050	8,307
	1923年	1922年	1923年	1922年
1	223,706	81,693	19,379	9,416
2	254,650	109,171	21,815	13,195
3	318,424	152,959	34,693	19,761

即ち本年三月は最も多く昨年の殆ど倍に達す貨物自動車の臺數は幹線道路交通の割合として又國內の自動車總數や製作臺より云ふも乗用自動車の約一割に相當す我が國に於ても其割合略同し

米國に於ける自動車臺數約千二百萬臺二家族に一

1922 2,489 3,21 37,59 9,20

斷ち自動車交通は逐次増加するに至れり千九百十三年の馬車數は總交通量の三十四「パーセント」なりしもの千九百二十二年には三、二「パーセント」となり乗用自動車は急激に増加し千九百二十二年には六十二、三五「パーセント」なりしもの千九百二十二年には八十七、五九「パーセント」となり貨物自動車は三、六七「パーセント」なりしもの九、二〇「パーセント」に成るに至れり若し此割合にて今後五個年を経過するものとすれば五年後には馬車は一、五「パーセント」乗用自動車八八、五「パーセント」貨物自動車一〇、〇〇「パーセント」となり馬車は幹線道路に於ては過去の運輸機關として僅に其痕跡を留むるに過ぎざるべし之に反し自動車交通は次第に増加し道路の交通は自動車なりと云ふも過言にあらざるに至るべし。

宜哉米國自動車工業益々隆盛を極め本年三月には同國一ヶ月の製作臺數最大「レノード」の三十五萬臺を突破し我が國內自動車總數は其一日の製作臺數にも達せざるなり左表は米國乗用自動車製作會社九十社貨物自動車製作會社八十社にて昨年七月より本年

臺の割合に達するも遠き將來にあらざるべし又製作工業の盛大前述の如く「フオード」會社の年産額拾億圓に達すと稱せられ然れども國內の道路改良費年額二拾億圓に達せず目下の所車輛の急激なる増加に對し道路の改良之れに供はず利に聴く機を見るに敏なる米國人は最近隨所に巨資を投じて雄大の計畫を建て各州共汲々乎として及ばざらんことを之れ恐るゝものゝ如し去れば中央政府も座視するに忍びず國內重要道路七「パーセント」即十八萬哩を選定し約十五年間に亘り各州に更に六拾億圓の國庫補助をなさんとす。

我國の一人當り道路費は年額(改良維持修繕共)僅に一圓に滿ざるも米國の夫れは二十五圓である之れも國の富みの程度が違ふからと云ふ事であるけれども富の程度からすると彼は吾の十二倍位に當る故其割合で行ても猶足りないのである。

改良計畫としても我國は三十年間に二千五百哩の改修であるが彼は十五年間に十八萬哩之れを一年平均の改修哩數にすると彼れは吾の十五倍に當るのである國庫補助の方で申すと彼は國庫歳入の約五「バ

「セント」も出すのに吾は僅に約〇、七「バーセン」位しか補助しない何と其差が餘りに違ひ過ぎはせぬだらうか。

○矢津峠開通——横須賀より浦賀に通ずる路道

矢の津時は頗る難道にして交通の不便を感ずる事久しかりしが、昨大正十一年八月以來改修工事に着手し最高所切下げ二丈及幅員擴張等に勵精したる結果、五月二十五日完成したるを以て同二十七日安河内知事以下臨場開通式を舉げ終つて浦賀學校にて祝賀會を催したるが嘗て米使ペルリ來航の往時に比較し、また向後益々頻激ならんとする浦賀及横須賀市の交通に絶大なる貢獻を齎らすものとして懷舊及感謝に溢るゝ祝賀の光景は近年稀に見る盛觀を呈し沿道亦非常なる歡喜に満ちたり。

○天満宮道竣成祭——高知潮江鎮座縣社天満宮參

道は豫ねてより改修工事施行中のところ六月一日竣工せるを以て同三日午前十時より竣工報告祭を執行山内男爵以下多數參列午後より餅投、相撲等あり夜間は活動寫眞煙火等種々の催しありて市況も久方ぶりに殷賑を極めたり。

○理事會——客月二十一日——午後五時——同九時——

京丸の内永樂俱樂部に於て開く、顧問澁澤子爵、會長水野内務大臣、庶務部主任理事長谷川内務省土木局長、經理部主任理事山田鐵造同志會副會長、出版部主任理事松木東京市制調查會理事、調查部主任理事比田内務省第二技術課長、理事中川鐵道省運輸局長、同大村鐵道省監察官、同和田參謀本部第三部長幹事佐上内務大臣祕書官、同牧内務省土木試驗所長同牧野内務技師、同田中土木事務官同都筑專任幹事出席、午後五時開會、大正十一年度事務並に會計報告の件、第四回定時會員總會開會の件、其他本年度事業に關する重要事項を審議決定し、尙牧幹事歐米出張中購入にに係る DENIGER (壹個は鐵道省に貸付) の實物に就きて説明の後紐育アスファルトアツソセーション其他より本會に對し同幹事を経て道路に關する活動映畫數卷寄贈ありたるもの過般到着したるを以て別室に於て之を試寫したるが畫面は純乎たる道路工事に屬し就中大陸に於ける新道開掘の狀況は其規模の頗る壯大なるを思はしめたり。